

クローズアップ

NGO・NPO

Close Up

NGO・NPO

飛魚ノックス

～在住外国人と日本人が
同じ京都人として創る交流の場～

組織概要

飛魚ノックスは、一九九八年に京都在住留学生数名により結成された非営利団体飛魚ボランティアサービスを母体としている。飛魚ボランティアサービスは、在住外国人の生活支援や国際交流を外国人自らが行うボランティア団体として、電話相談や日本語教室、情報誌の発行などの事業を行ってきた。

その後、私たちは自主的な国際交流を通じて、「在住外国人の自主組織」というだけではなく「在住外国人と日本人との交流・協力・協調の場」として組織を捉えなおす必要性を感じ、二〇〇二年四月をもって「飛魚ノックス(NOCSS)」へと名称を変更した。

ノックスとは、英語のNo-boundary Cross Cultural Squareの略称で、今後の組織の活動に不可欠な交流の「場」の提供という理念から生まれた。

魚は本来飛べない生き物。しかし、飛魚は自分の可能性を最大限に生かし、「飛ぶ魚」として生きている。私たちもこの飛魚のように、言語、文化、習慣などの違いや社会的制約を乗り越えて、たくましく活動する組織でありたいという願いを込めている。

飛魚ノックスは、在住外国人と日本人と一緒にあって、在住外国人の生活支援と国際交流の充実を支援するボランティア団体である。私たちは今後、在住外国人と日本人の交流の場を提供し、さらなる異文化理解を旨として、充実した活動を進めていき

たいと考えている。また、言語・文化・習慣などの違いを乗り越えて、在住外国人が自分の可能性を発揮し、京都を異文化市民のより住みやすい環境につくっていくことを目指している。

活動趣旨

在住外国人の諸問題をより理解している在住外国人自らが主体となり、日本人と協力して、お互いの文化や習慣にふれあい、あい・わかちあいの場を提供し、在住外国人が直面しているさまざまな生活面での問題の解決に向けて共に活動する。

活動内容

ワールドフェスティバルin京都

「であい・ふれあい・わかちあい」をテーマに異文化理解・国際交流のあり方を提案している。

在住外国人のための日本語教室

日本語教師資格保持者・日本語教師経験者を筆頭に、在住外国人の方々に日本語を教えるボランティアを行っている。

国際交流情報誌「TOBIUO」発行

日本人も在住外国人も興味のある情報、文化体験・生活誌、それぞれの文化的特徴の紹介を四力国語で掲載する情報誌として発行している。現在、発行準備中。

飛魚ノックス(TOBIUO NOCCS)

〒606-8301 京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1 京都市国際交流会館内3階事務所

TEL&FAX 075-771-9890 E-mail: info@tobiuo.org URL: http://www.tobiuo.org/

国際交流パーティー

夏には流しそうめん大会、秋にはスポーツ大会、冬にはクリスマス、春には花見大会など、季節の変化に合わせて実施している。

料理教室・お茶教室

ワールドフェスティバルで提供するさまざまな国の料理とお茶の調理長を囲んで、国の紹介をはじめ、食文化・お茶の文化の話をして、一緒に料理またはお茶を作って飲食する活動である。

外国人のための電話相談

在住外国人のためのホットライン。二四時間FAX・留守番電話・e-mailにて受け付け、二四時間以内に返答する。どんな内容でも気軽に相談を受けている。



←京都市国際交流協会主催の桜まつりにスペイン料理を出店

在住外国人のためのリサイクル品の提供

日本人学生の引越時に残す生活用品をはじめ、さまざまな不用品を収集して外国人に提供し、バザーなどで販売している。

小学校・中学校・高等学校などでの在住外国人との異文化交流や異文化紹介

学校の要望に応じて、異文化交流プログラムの相談・指導、実施するに当たっての外国人の紹介とプログラムの管理を行っている。

外国語講座

春・秋は(財)京都府国際センターと共催。

得意テーマ・提供できるプログラム例

であい・ふれあい・わかちあいの場を提供す



→地域の小学生と餅つきで交流↓



るために行うワールドフェスティバル・国際交流パーティー・異文化紹介プログラムである。

学校などでの異文化交流プログラム内容と実施についての相談と外国人の紹介、国際交流パーティーである。

自治体への提言や要望・発信したいメッセージ

小さな「であい」から、多くの人との「ふれあい」を通して、「わかちあい」及び異文化理解のできる社会づくりを目指そう。異文化と触れ合うことによって自分自身の発見につながる可能性がある。

身近に住んでいる在住外国人との「であい・ふれあい・わかちあいを促進するために、学内のみならず、学外での活動も大切である」と考えられ、それをも支援できるような体制を考えている。

これまでの飛魚ノックスは、さまざまな形で京都という日本の古都を中心に活動を展開してきた。特に、将来の世代を育てる場である学校での総合学習の支援などで貢献してきた。ただ、どのNPO団体も直面している問題に、活動資金と活動の場へのアプローチや獲得するための手続きの複雑さかつ困難さがある。飛魚ノックスでもさまざまな活動を展開する際に、活動する場所に伴う事務的手続きを簡略化できるかどうか大きな課題となっている。また、活動の場にかかる資金的な問題やスタッフの生活環境の維持なども問題である。

クローズアップ

NGO・NPO

Close Up

NGO・NPO

国際交流ボランティア ネットワークさくら ～身近に出来ることからを合言葉に～

一九八八年四月、日立市は県内二番目に国際交流課を設置した。これを契機に市担当者が既存の国際交流団体や市民に呼びかけ、これからの国際交流のあり方について検討を重ね、新たに市民中心の草の根の活動を進める方向が定まった。

一九九〇年一月、身近にできることから活動しようと「国際交流ボランティアネットワークさくら」が誕生した。早速、翌年一月から三月まで日本語講師ボランティア養成講座を設け、養成講座終了後、日本語講師ボランティア希望の人たちが一〇月から第一期日本語教室を開講した。また同月、日本語教室の生徒向けバザーを実施するとともに、カンボジアへ衣類を送った。一月には日本語教室の生徒、留学生、在住外国人による第一回「外国人の日本語による意見発表会」を開催した。

当時はまだボランティアによる日本語教室も少なく、手探りの状態ながら新しい国際交流の姿を考えようと先進のボランティア団体などを訪問し、いろいろな手法を学んだ。そして「身近に出来ることから」を会のモットーとして矢継ぎ早に活動を打ち出してきた。これが現在のさくらの活動の原点となるものである。

活動は五弁の花びら

「さくら」は五弁の花びらになぞらえて次のような五分野で活動している。

1 語学(言語を通して外国人と市民との交

流、国際理解を図る)

日本語教室、外国人の日本語による意見発表会、翻訳、通訳など。

2 支援(留学生や在日外国人への支援、国際的活動へ協力する)

さくらチャリティバザー、ユニセフへの協力支援、地雷撤去運動への協力、地雷グッズ販売、難民を助ける会や国境なき医師団への協力支援など。

3 研修(国際理解を中心に学ぶ、啓発する)ほかの国際交流団体への視察研修、講演会、ミニサロンの実施など。

4 文化交流(異文化の相互理解や、交流を図る)

伝統文化の紹介・実践、料理、音楽、芸術を通しての交流など。

5 ホームステイ・ホームビジット(外国人の宿泊、訪問、家庭に受け入れ身近に相互理解、交流を図る)

市訪問の外国人、姉妹都市訪問団、留学生、日本語教室の生徒、市在住外国人などを家庭に招く交流など。

一九九一年に開講した日本語教室は、現在第二六期目を迎えた。学んだ日本語の発表の場、また、異文化理解、国際理解の場としての「外国人の日本語による意見発表会」は県内で最初の試みであり、今年一四回目を迎えた。この発表会やこれに続く交流会を通して、文化の異なる人たちの意見を聞き、人間として同じであることを認識した

国際交流ボランティアネットワークさくら

〒317-0063 日立市若葉町1-1-15 TEL&FAX 0294-21-5849

E-mail: hiyokotamailjp@yahoo.co.jp URL: http://www.geocities.jp/ihisakura/

▶二〇〇三年「さくらチャリティバザー」



り、共感したり、外国事情を知るなど、市民は関心の視野を広げ、外国人は地域により馴れ親しむ良い機会として、「さくら」恒例イベントの柱となっている。
支援活動は毎年「さくらチャリティバザー」を開催し、今年一三回目を迎えた。今では市報を読んだ市民からの品物提供も多く、外国人や市民からは、欲しいものが安

く手に入る機会と喜ばれている。収益金は留学生、在住外国人への支援活動や国際支援に使っている。国境なき医師団、難民を助ける会、ユニセフへの寄付、地雷撤去のためのグッズ販売などは毎年「さくら」の支援活動として継続し、また海外へ義援金を送ったりもしている。

一九九三年「異文化コミュニケーション」を題した同時通訳者村松増美氏の講演を皮切りに、国際的活動をしている団体や外国人による講演会を毎年一回から二回開催し、これまでに一三回の講演会を開催した。

▶二〇〇三年講演会「スウェーデン事情」



文化交流では二大イベントを主催した。一九九五年に「グラスネット草の根国際交流全国ネットワーク」のメンバーとして、「グラスネットフォーラム・イン日立」を開催。一九九七年にオーストリア・ウィーゼルブルグ音楽学校青少年ウインドオーケストラの公演「ドリームコンサート」を実施した。この時には八〇〇人収容の音楽ホールが満席とな

り、これまでの「さくら」の活動の中でも特に画期的で忘れられないイベントとなった。

行政との連携、地域企業及び市民の協力

私たちは自由な発想と企画力、行動力で柔軟に活動しているが、行政との連携は重要である。市民へ情報発信する際の市報への掲載（市民へのアピールとして最適）、活動のための場所の確保や減免措置、助成金の提供（年三回限度）など、必要に応じ行政のサポートを受けている。イベント時には一緒に労力を出してくれることも力強い。また、行政が市民団体の力が必要なきに、各団体が同じテーブルで話し合い、共に考え、協力し合い、きめ細かな活動計画ができるなど、ボランティア団体のパワーやノウハウが発揮されるので、パートナーシップはうまく保たれている。

活動の推進には地域企業の協力も大きい。イベントにおける協賛、品物の提供などは、ボランティアにとって強力な支援である。また、一般住民からの品物提供、イベントへの参加や協力など、私たちは多くの方々から支えられ活動の輪を広げている。

近年、国際交流は外国人とお付き合いといった交流から、協力、支援、共生を目指すようになった。今後とも外国人と共生できるまちづくりを目指して、行政との連携を図り、地域企業及び市民にも協力を得ながら、さまざまな活動を展開していこうと思う。